

# 2016年度 センター試験 地学基礎 (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 2科目で60分

大問数・解答数	大問数：3題	解答数：15問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	○ 変化なし    ● やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p><b>総評</b>                  全体的に教科書に沿った標準レベルの問題である。昨年度に比べ選択肢が減少し、単に基本的な知識が求められる問題が増加し、図を読み取り計算させる問題も取り組みやすく、全体として易化した。                  日ごろから教科書の内容を理解し、図やデータをもとに考える訓練をしておくことで、高得点が狙える問題であった。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	「地震と自然、プレートの運動」「地層と生命の歴史」「火山やマグマ、火成岩」	27点	標準的な問題である。Bの問5に対しては、詳細な知識と図の読み取りが必要とされたので、戸惑った受験生も存在しただろう。A、Cは極めて標準的な問題で取り組みやすかっただろう。
第2問	「地球全体のエネルギー収支(熱収支)」	13点	標準的な問題である。教科書で説明されている地球のエネルギー収支や温室効果等の知識を確認させる内容であった。
第3問	「銀河の分布」「太陽系の天体」	10点	標準的な問題である。Aは銀河の分布に関する図を読み取らせる問題、Bは太陽系天体の知識を問う問題であり、いずれも取り組みやすかっただろう。